

| | | | | | |
|-------|---------------------|-----|--------------|------|----|
| 教科 | 工業 | 科目名 | インテリアエレメント生産 | 単位数 | 2 |
| 学科 | インテリア科 | 学年 | 2 学年 | 履修区分 | 選択 |
| 使用教科書 | インテリア エレメント 生産 コロナ社 | | | | |
| 副教材など | | | | | |

1. 科目の目的

人が生活する空間（インテリア空間）にある物品や材料は様々な物質からできています。それらの素材から構成部材および完成品（家具・照明器具等）までのすべてをエレメントといいます。金属・木材・プラスチック等の素材の特性，加工の原理と方法，各種エレメントの生産技術・生産工程および，基礎的な管理方法を習得し，生活の質の向上に活用することを目的とします。具体的な目標として，下記に示す各種専門の資格試験のための基礎学力の確立を目指します。

- 1) インテリアコーディネーター (インテリア産業協会)
- 2) インテリア設計士 2級 (日本インテリア設計士協会)
- 3) 内装士 2級 (インテリアディコレーター) (日本設計士協会)
- 4) 住福祉環境コーディネーター (東京商工会議所)

2. 授業の内容と進め方

素材の性質や特徴を知るためには，実際に触って，実際に加工してみることが最良の方法です。身近な材料である木材においては，加工実習や製作実習と関連して授業を進めることにより，学習の効果を上げます。

3. 学習する上での留意点

木質材料，金属材料，プラスチック材料，テキスタイル，セラミック，ガラス，ほうろう，粘土焼成品，石材，皮革，紙など，どれをとっても身近なインテリア空間に見つけることができる材料です。できるだけ，目にすることができる製品を参考にし，材料見本を使って，実際に材料に触れることにより，素材の性質や特徴をより理解しやすいように配慮します。加工に使用する工具や道具はできるだけ実物に触れ，また，加工実習で実際に使用して理解を深めます。家具の構造においては「インテリア製図」や「インテリア実習」の学習と関連させ，知識と技術の習得に相乗効果が上がるように進めます。生産技術においては，機械を実際に動かして，その基本的な構造の理解を助け，安全な使用法を習得するよう留意します。

4. 課題等について

各単元において，ノートの提出および，小テストを行い，そこまでの内容理解度をチェックします。理解が不足していれば補習・再テストを繰り返します。

5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

| 評価の観点 | 評価規準 |
|----------|--|
| 関心・意欲・態度 | 身近なインテリア空間にあるエレメントの材質や構造に常に関心を持ち，疑問のあるエレメントについて調べたり，質問するなど，意欲的な学習活動を行っているか。ノートは適切に整理されているか。 |
| 思考・判断・表現 | インテリアエレメントについての基本的な知識を活用し，生活空間の性能を高めるために適切なエレメントを選択することができるか。 |
| 技能 | 加工用具・工具の正しく安全な使用技術を見つけているか。適切なエレメントを使用したインテリアを提案することができるか。 |
| 知識・理解 | インテリア計画に必要なエレメントの素材や構成材について基礎的・基本的な知識が身についているか。安全で性能の高い，快適なインテリアを計画するために，適切なエレメントを活用したインテリア空間プランを提案しわかりやすく表現ができるか。 |

6. 評価の方法

評価については，次のものを総合的に判断します。

- 1) 定期考査の結果による，学習の内容の理解度，および定着度。
- 2) 授業への取り組み（発表・学習活動への熱意・意欲・態度・出席状況）。
- 3) 授業時のノートの整理状況。各単元の小テストおよび，課題の内容と提出状況。

《指導計画》 科目名 インテリアエレメント生産

2 学年

2 単位

| 学期 | 月 | 学習内容 (単元・考査等) | 学習のねらい | 評価方法等 | |
|-------------|------------------|---|---|------------------------------------|-----------|
| 一 学 期 | 4 | 1. 材料と加工 | 内装仕上材について、素材から一次加工された構成材までの、性質や特徴、加工の方法や技術・留意点、加工に使用する工具やジグ、製品の規格や種類等について学習し、「適材適所」を生かした、性能の高い、快適なインテリアを計画するための基礎的知識と技術を習得する。 内装仕上げ、および構成材の加工には接着が多用されている。接着の原理、および、接着剤の種類、接着力と作業性について学習し、用途にあった接着剤を使用する知識と技術を習得する。 家具には、使用目的に沿った機能と構造、美しい形態が要求される。建具には空間の遮断と開閉、かつ採光・換気の調整を行い、装飾的効果も必要である。また、テキスタイル製品、窓回り部品、壁装材料、照明器具それぞれに要求される機能と構造および加工方法を学習し、多様な形態や機能を持った製品をデザインし、製作する、あるいは、コーディネートするための基本的知識と技術を習得する。 | 行動観察 模擬テスト | |
| | 5 | 1.1 木材と木質材料 | | 中間考査 課題提出 | |
| | | 1.2 金属材料 | | | |
| | 6 | 1.3 プラスチック材料 | | 期末考査 ノート検査 | |
| | | 1.4 テキスタイル | | | |
| | | 1.5 セラミック | | | |
| | 7 | 1.6 石材, 皮革, 紙, 籐, 竹 | | | |
| 1.7 接着 | | | | | |
| 9 | 2. インテリアエレメントの構造 | | | | |
| 二 学 期 | 7 | 2.1 家具 | 家具には、使用目的に沿った機能と構造、美しい形態が要求される。建具には空間の遮断と開閉、かつ採光・換気の調整を行い、装飾的効果も必要である。また、テキスタイル製品、窓回り部品、壁装材料、照明器具それぞれに要求される機能と構造および加工方法を学習し、多様な形態や機能を持った製品をデザインし、製作する、あるいは、コーディネートするための基本的知識と技術を習得する。 | 中間考査 課題提出 | |
| | | 2.2 建具 | | | |
| | 9 | 2.3 テキスタイル製品 | 工業製品の製造において、専用の加工機械を導入することにより、加工精度および、効率を飛躍的に向上させ、品質を安定させることができる。インテリアエレメントの中で、身近な木製家具、鋼製家具、照明器具などの生産工程において、使用される木材加工機械および、金属加工機械について、構造と機能、操作方法と手順、危険性と安全対策などのを学習し、工業製品製造における基礎的基本的技術を習得する。 | 行動観察 模擬テスト 期末考査 ノート検査 | |
| | | 10 | | | 2.4 窓回り部品 |
| | | | | | 2.5 壁装材料 |
| | 11 | 2.6 照明器具 | | | |
| | | 3. 生産技術 | | | |
| 12 | 3.1 木材加工 | 生産形式には建築物のような受注生産と。家具や家電製品のような見込生産、および、住宅部品などのロット生産がある。それぞれの、生産計画、工程計画と管理、品質管理、安全・衛生管理および、システム化についての基本的な事項を学習する。また、最も身近な製品である家具の生産について、製作工程に沿った加工手順、生産の方式、工場における加工設備のレイアウトについて学習する。 | 学年末考査 ノート検査 | | |
| | 3.2 金属加工 | | | | |
| | 4. 生産管理 | | | | |
| 三 学 期 | 1 | 4.1 生産管理の基礎 | | | |
| | | 4.2 家具生産の工程 | | | |
| | 2 | 5. エレメント生産の応用 | | | |
| 3 | 3 | | | | |